

「インドネシア大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学文学部 岩岡侑汰

1. 学習成果

私はインドネシア語学習の一環としてプログラムに参加したが、結果的に最も大きかった成果は主体的・能動的な学習および交流ができたことであると感じる。プログラム内ではインドネシア大学の学生と共に受講するクラスが幾つかあり、また最後には共同でのプレゼンテーションがあったが、その他にも学生が主体となって文化交流の機会をつくることに成功した。インドネシアの地を踏むことができなかったことは唯一残念であったが、しかしその中で最大の成果を出せるよう精一杯の取り組みができたことは満足であった。来年度以降、現地に赴ける状況が整った時には自分で計画を立て留学を行いたい。

2. 海外での経験

プログラムの中で先生方・同級生と交流するにあたり、初めのうちは細かな言動一つ一つにすら違和感を覚え、そういった点で異文化間の障壁を感じていた。例えば「はい」「いいえ」といったごく単純な相槌ですらその文化・言語に特有のリズムやニュアンスがあると感じており、それを自然に分かるようになるには努力が必要だったはずである。しかし最後には多少のジョークを含めインドネシア大学の学生たちと打ち解けて会話のできたので、これは成長した経験であると感じる。

3. プログラム内容

プログラムは語学が主であったが、インドネシア大学の先生方にインドネシア語を教えてもらうのはこの上なく貴重な機会であった。私はプログラム以前に多少インドネシア語を学んでいたが、先生方には非常に実践的なインドネシア語を教えて頂き、理解が深まったと実感した。インドネシア大学の学生とディスカッションを行う場面では先生方に教えて頂いた知識を活かそうと努力した他、日本語・英語・インドネシア語を交えて会話をするという稀有な経験を味わった。

4. 進路への影響について

私はプログラムの志望動機書に「将来の研究に役立てたい」と書いたが、プログラムを通して多くのヒントを得られたのではないかと感じる。例えばインドネシアの移動手段について、Ojek や Gojek といった交通機関は日本にないユニークなものであり、地理にまつわる一つの課題として調べるに値するのではないかと考える。就職等に関しても、ある程度インドネシア語を習得するまでの目安が付けられそうだと感じ、進路選択のための視野を広げるための一助としたい。